



相手を思いやる優しい6年生

今年は何年以上に寒い冬でしたが、校門付近の紅梅が咲き始め、少しずつ春の足音が聞こえてきました。3月6日まで兵庫県のまん延防止等重点措置が延長され、オープンスクール・参観・懇談が中止となってしまいました。今年度のまとめとして子どもたちの成長を学校で見ただけでないのは残念ですが、あまっこステップアップ調査の結果やあゆみをご覧ください。先日あまっこステップアップ調査の個票に一人一人振り返りを書いて持ち帰りましたので、親子で十分話し合っただけで復習をするのと同時に苦手克服と今後の課題を設定してください。意識調査と学力の関連性からも学校・家庭両方の生活の振り返りも大切です。

さて、3月22日に94人の6年生が卒業します。コロナ禍で5・6年と過ごした6年生。「高学年になったらこんなことしたいな」といろいろな目標や希望があったと思います。しかし、制限ばかりで行事も中止や縮小。きっと描いていた5・6年とは違ったことでしょう。振り返ってみると、5年になって、緊急事態宣言中で5月まで休校、6月15日まで分散登校。全員がそろっての学級開きは6月15日でした。給食は前を向いて黙食。家庭科の調理実習は行わない。体育は対面や接触のある種目は行わず、呼吸が荒くならないように運動制限。休み時間の遊びも制限。音楽ではリコーダーは吹けず、鍵盤ハーモニカも指で押さえる練習の後、1回だけの演奏。歌唱は間隔をあけてマスクをつけて回数の制限での練習。5年では自然学校が1日だけ。そんな中でも元気いっぱい笑顔で過ごし、いつも前向きでした。制限でできないことに愚痴を言うのではなく、できることを考えました。例えば、対面で接触するバスケットボールができないなら、ネットを挟んでバレーボールを楽しみます。管楽器が演奏できないなら打楽器で曲作りをします。歌唱が制限されるなら耳でしっかり聴いてから音とりをしたり、友達と響かせ合ったりします。黙食ならばしゃべる時間を食べる時間にして残食をゼロにします。調理実習の代わりに給食や自宅のメニューから献立や栄養のバランスを考えます。学校生活を楽しく生き生きと過ごしている姿が輝いていました。それは6年生の1番素敵どころ、「相手を思いやる優しさ」があったからです。こんな時だからこそ、相手を大切に、前向きに過ごすことが必要。それを体現した6年生、さすが、難波小学校の最高学年です。1年から5年の後輩たちに確かな足跡を残してくれました。延期になっていた修学旅行は、広島には行けませんでした。一泊二日で神戸・淡路島に行きました。初めての宿泊に戸惑うこともありましたが、SDGsの学びと集団行動での社会性の形成・楽しい思い出と充実した2日間を94人全員で過ごせたことが本当に良かったです。

3月3日は「6年生を送る会」です。1年～5年の在校生が、6年生に感謝の気持ちを伝え、卒業をお祝いします。